

崇元寺美化ボランティア レポート

～ 歴史を学び保存に貢献 ～

琉球国王の代々の位牌がまつられ沖縄戦で焼失した後、石門が残り、バス停の名にもなっている崇元寺。地中に500年前の石堀が残っている国指定の重要文化財です。市は現在ガイダンス施設の建設を進めており、かつての建物などの模型を現地に設置。石門に生えた雑草を抜き取りきれいにしたい文化財課と学生にボランティアの楽しさを知ってほしいまちづくり協働推進課のコラボ企画に学生が参加、崇元寺とは何かを学び、美化保存に一役買いました。



主催（那覇市）	文化財課 × まちづくり協働推進課（なは市民活動支援センター）
講師	文化財課 学芸員 外間政明
参加者（9名）	沖縄大学：宮城さん、大城さん、金子さん、大浜さん、山城さん 沖縄国際大学：大城さん、座波さん、新垣さん 国際医療福祉大学：仲村渠さん
内容	崇元寺について学んだあと、石門の雑草抜きを行いました。
日時	2024年2月24日（土）10時～12時

活動の流れ

オリエンテーション（参加者自己紹介）

外間学芸員より崇元寺についてミニ講話

「みなさんの家には仏壇ある？」「沖縄の仏壇には先祖の位牌があるよね。ここ崇元寺は代々の琉球国王の位牌があったところなんだよ。廟（びょう）っていうんだ。」「500年前、琉球国王の即位のために冊封使が中国から来たときは、亡くなった先王をまつる儀式がここで行われたんだ。」と外間さんより分かりやすい説明を受けました。



石門の雑草の抜き方について

「イタビなどの繁茂した雑草は貴重な石積みを弱らせてしまうので、丁寧に抜いてほしい。へばりついた根っこはカマやヘラで丁寧に切り取って。石門は傷つけないようにお願いします。」と外間さんより説明を受けました。



下馬碑（げばひ）について

琉球文で「按司も下司もくま（此处）にて馬から下りるべし」と書いてある。崇元寺に入るにはどんな人でもどんなに急いでいても馬から下りないと行けない、という決まりがありました。どうしても急ぐ人には別に低い位置に道が用意されていたそうです。沖縄大学の山城さん（左）と大浜さん、イタビをしっかりと取ってキレイにしますと意気込んでいます。



雑草抜き（約一時間）

参加者同士ゆんたくしたり、黙々と雑草抜きにはまったりしながら作業を進めます。「無心になれていい、ずっとやれそうな気もしてくる」という声も聞こえ、みなさん、みるみると石門がキレイになっていくのが嬉しい様子です。





周囲からの「ありがとう」

通りがかった住民から「キレイにしてくれてありがとう!」「草が目に入らないように注意しないと」と言われたり、わざわざ車を停めて降りてきて「30年前自分も子ども達と崇元寺をキレイにしたことがあるんだ、そのことを思い出せてとても嬉しかった」とおっしゃっていた男性もいました。



キレイになりました！

キレイになった石門をあらためてくぐってみたみなさん、満足げです。下馬碑の石積みにへばりついていた細かいイタビもキレイに抜き取ってくれています。





振り返り

ある程度キレイになり、皆でスッパマン飴を食べながら振り返りをしました。学生からは「崇元寺のことを初めて知った、こんな歴史があると分かってためになった」「自分たちがキレイにしたことで愛着を持た」「離島から進学で来ていてあまり本島のことを知らなかったけど、興味を持た」「こうした文化財をキレイにする活動があれば、今後もやってみたい」などの感想がありました。



SDGsパスポート配布

なは市民活動支援センターからSDGsパスポートを参加者に配布しました。このパスポートは、ボランティアのスタンプ帳です。本日は90分以上の活動だったので2個のスタンプをみなさんゲットしました。30個たまれば、沖縄県ユネスコ協会から認定証がもらえます。



今後について

那覇市文化財課とまちづくり協働推進課は今回、初めてコラボしてのボランティアプログラムを実施しました。参加者から予想以上に好評だったため、今後も「文化財×ボランティア」のプログラムを実施していく予定です。ぜひ今後とも多くの方のご参加、お待ちしております。

令和6年2月24日

那覇市まちづくり協働推進課

TEL：861-5024 メール：C-KATU005@city.naha.lg.jp